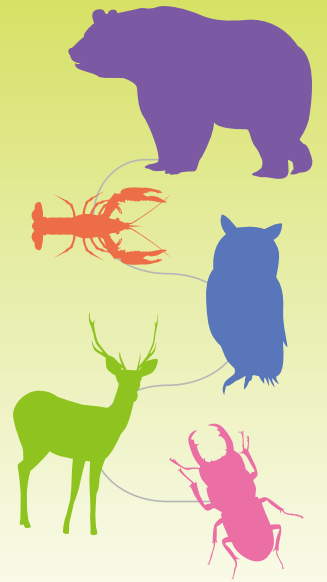


生物多様性の現状



私たち人間は自然の恵みを受け、自然とともに暮らし、自然にも影響を与えながら地域の文化を育んできました。しかし、現在、自然と人間の結びつきは失われ、危機的な状況をむかえています。いま、私たちが直面している生物多様性の危機を回避し、次世代に豊かな自然環境をつないでいくためには、身近にある自然環境とその成り立ちの歴史を時間軸の中で正しく理解することが大切です。

生物多様性とは

地球上には、地形や地質、標高や気候などの違いに応じた様々な生態系があります(生態系の多様性)。個々の生態系には多種多様な生き物たちが生活しています(種の多様性)。同じ種でも、姿や形、性質などの形質が異なり、特異な個性をもっています(遺伝子の多様性)。これらの生き物たちが互いにつながり合い、支え合いながら暮らしている、「命のつながり」を「生物多様性」といいます。

地球上の生物多様性の危機

しかし、いま、地球上のすべての生命の土台である「生物多様性」は、これまでにない速さで失われつつあります。その要因は、大きく4つあります。

- 自然環境の破壊と汚染
- 資源の過剰な利用
- 外来生物
- 地球温暖化

かつてないほど悪化している生物多様性

● 陸域

1970～2010年の間に陸生の生物は39%低下

主な要因: 農業、開発等、人間による土地利用の拡大による生息地の消失

● 淡水

1970～2010年の間に淡水動物は平均76%低下

主な要因: 人間の開発行為等による生息地の消失、汚染、分断など

● 海洋

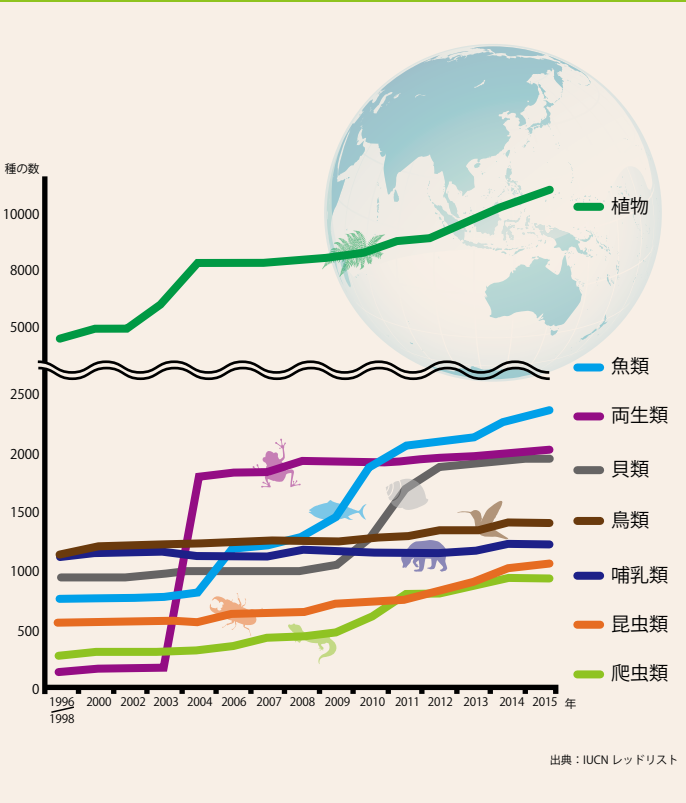
1970～2010年の間に海洋生物種は39%低下

主な要因: 漁業、開発等による生息地の消失、乱獲、温暖化など

* 生きている地球指数とは: 地球上の生物多様性の豊かさを示す指数
世界各地の3,038種の哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類10,380の個体群動態に基づき計算(WWF, ZSL, 2014)

生きている地球指数*

絶滅のおそれが高い種の数の推移



日々の暮らしと生物多様性

地球の環境容量を示す「**エコロジカル・フットプリント**」*を基に、私たちの消費の大きさをみると、地球1個分の生産量に対して、世界の平均では地球1.5個分、日本は2.3個分にあたります。

日本は、資源を外国からの輸入に頼っています。森林伐採や土地汚染など、私たちの日々の暮らしは、身の回りだけでなく、世界中の自然環境に大きな影響を与えています。一人ひとりが、日々の食卓、食べている素材、それらがどこからきたのかを知り、食材をあますことなく使い切る「**足るを知る暮らし**」をしていくことが、持続可能な資源の利用につながります。自然と調和して生きるよう、自分の考え方、自分の暮らし方を変えるなど、ひとつひとつの積み重ねが、持続可能な社会の実現につながります。

* エコロジカル・フットプリント: 人間活動が環境に与える負荷を、資源の再生産および廃棄物の浄化に必要な面積として示した数値。計算に必要な要素: 耕作地面積、人が使う森林地面積、二酸化炭素呼吸地(森林など)の面積(カーボン・フットプリント)、牧草地、漁場面積、建物などの生産阻害地の面積。





Hitomi Kaneko